

**個別事業評価**

事業No.	22	施策の柱への位置づけ	柱④心の教育改革
事業名称	<b>教育相談体制充実費</b>		担当課
	子どもと親の相談員活用事業 心の教育電話相談事業		当初予算額(千円)
	スクールカウンセラー活用事業 心の教育アドバイザー活用事業		補正後予算額(千円)
	スクールソーシャルワーカー活用事業		決算額(千円)
			人権教育課
			128,636
			-
			124,799

		当初	年度末															
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> 不登校、いじめ、暴力行為等児童生徒の問題行動は、依然として高い水準で発生している。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式)等による現状の把握の他、県内全市町村を訪問し、具体的な実態把握に努めた。															
		<b>【要因】</b> 家庭生活や学校生活に起因して児童生徒が不安、悩み、ストレス等を抱えている。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 市町村の他、関係機関等との連携により、一定の要因の特定ができたが、誰にも訴えることができず、一人で悩み等を抱えている児童生徒がまだまだいるものと推測される。															
②	目標(Outcome)	◆ 県内公立小中学校の不登校児童生徒数を、平成20年度より100人減少させる。  <目標達成のための取組> ◇ スクールカウンセラー、心の教育アドバイザー、子どもと親の相談員の配置、心の教育センターに相談員を雇用し、児童生徒や保護者等の不安や悩みに対して、いつでもどこでも相談できる体制を県内全域に広げていく。 ◇ スクールソーシャルワーカーを配置し、問題を抱える児童生徒及び保護者への支援を行う。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 設定できていた。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 速報値ではあるが、平成20年度に比べ、不登校児童生徒の出現率は一定改善され、設定目標に近い数値で減少した。 しかし、依然として全国より高い水準にあると思われる。  <参考データ> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>[H20]</th> <th>[H21]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スクールカウンセラーの相談対応件数</td> <td>17,279</td> <td>19,556</td> </tr> <tr> <td>心の教育アドバイザーの相談対応件数</td> <td>3,025</td> <td>2,484</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカーの対応人数</td> <td>671</td> <td>1,136</td> </tr> <tr> <td>心の教育センターの相談対応件数</td> <td>1,578</td> <td>1,568</td> </tr> </tbody> </table>		[H20]	[H21]	スクールカウンセラーの相談対応件数	17,279	19,556	心の教育アドバイザーの相談対応件数	3,025	2,484	スクールソーシャルワーカーの対応人数	671	1,136	心の教育センターの相談対応件数	1,578	1,568
			[H20]	[H21]														
スクールカウンセラーの相談対応件数	17,279	19,556																
心の教育アドバイザーの相談対応件数	3,025	2,484																
スクールソーシャルワーカーの対応人数	671	1,136																
心の教育センターの相談対応件数	1,578	1,568																
③	実施内容(Input・Output)	◆ スクールカウンセラー 111校配置 ◆ 心の教育アドバイザー 21校配置 ◆ 子どもと親の相談員 20校配置 ◆ スクールソーシャルワーカー18市町村配置 ◆ 心の教育センターに電話相談員を雇用 【9:00~21:00対応】 (21:00~9:00は社会福祉法人同朋会に委託し対応)	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) スクールカウンセラー、心の教育アドバイザー等の配置においては、平成20年度中に各市町村からの希望を取り、希望のあった市町村のニーズに応えることができた。															
		目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <b>イ</b>																
		総合評価と今後の方向性																
		各市町村へのスクールカウンセラー等の配置や電話相談事業の実施により、児童生徒や保護者等の不安や悩みに、一定対応することができた。  <b>今後の方向性</b> ◆ スクールカウンセラー、心の教育アドバイザー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカーの配置拡充と心の教育センター電話相談の充実を図る。 ◆ 平成22年度は、スクールカウンセラー等と学校の両者から実態調査を行い、課題等を精査したうえで、スクールカウンセラー等と学校のより円滑な連携につなげる。 ◆ 県内のさまざまなケースに対応するため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の人材育成と人材確保に努める。 ◆ 平成22年度より、県教育委員会が県内全市町村の要保護児童対策地域協議会の構成員となり、市町村と一体となった支援を行うため、スクールソーシャルワーカー等のより有効活用を目指す。																

個別事業評価			
事業No.	23	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革
事業名称	温かい学級づくり応援事業	担当課	人権教育課
		当初予算額(千円)	6,517
		補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	5,797

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> 平成20年度、高知県の不登校出現率は全国ワースト6位と前年度ワースト2位と比べると改善傾向にはあるが、生徒指導上の諸問題に関する課題は依然厳しい状況が続いている。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成21年度の生徒指導上の諸問題の調査の分析結果から、支援を要する地域や学校を把握することができた。
		<b>【要因】</b> 高知県の経済・家庭状況に起因する課題も背景にあるが、「子どもたちにとって温かい学校・学級づくりを進めていくことが不登校の予防・支援の基盤となる。 しかし、現状としては不登校等問題行動が生じてからの対応に追われ、温かい学校・学級づくり等の予防的な支援が十分でないと考え。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 温かい学校・学級づくりを目指した予防と支援の一体化が進んでいる学校において学級の状態の改善が見られたため。
②	目標(Outcome)	<b>◆ 県内小中学校の全ての教職員がQ-Uアンケートを活用できるようにする。</b>  <b>※</b> 昨年度は高知県内の91%の学校がQ-Uアンケートを実施した。本年度は、全小中学校にQ-Uアンケートを1回配布し、児童生徒理解をさらに深め、不登校等の未然防止、早期支援について組織化を図り、より具体的・効果的な活用を図る取組を進める。そのため、校内研修100回以上実施し、心の教育センターが作成したQ-U学級支援シートの普及も図る。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 市町村教育委員会とも連携・協力し、各校に校内研修の支援を行うことができた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> 市町村教委から提出される実績報告書や学級担任に実施する調査票の集計結果を経年の比較することにより、効果的・具体的な取組が進んでいるかを検証する。	<b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 高知県内の97%の小中学校がQ-Uアンケートを実施し、未実施の極小規模校においても研修は実施しており、Q-Uについて理解は進んだ。 しかし、結果を分析し、学級の課題を解決するために活用することについてはまだ不十分などもある。
③	実施内容(Input・Output)	<b>◆ Q-Uアンケートの配付</b> 全公立小中学校の全学年を対象に2回実施のうち1回分を配付  <b>◆ 基本研修会(3会場)</b> 初めて活用する教員対象の研修を実施する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) <b>◆ 左記の研修会は計画通り実施した。</b> ・ Q-Uアンケートの配付(51,153枚) ・ 基本研修会 (3会場:114名参加) ・ 学級経営講座 (2会場:150名参加) ・ 教育相談講座 (3会場:114名参加)
		<b>◆ 学級経営講座(2会場)、教育相談講座(3会場)</b> Q-Uアンケート活用のための応用研修を実施する。  <b>◆ Q-U活用研修</b> 市町村、学校へ出向いて、事例を用い、分析方法、組織的な児童生徒への支援方法などQ-U実施結果を今後の学級経営にどう活かすかについて研修する。	<b>◆ Q-U活用研修は、130校の校内研修会に出向き、分析結果を受け、組織的な児童生徒への支援方法などを具体的に研修することができた。学校によっては、継続的に研修要請があった。</b>  <b>◆ 学級担任からの調査票を集計し、実施した全小中学校の児童生徒・学級状態を把握することができた。また、学級担任の取組に対する意識や活用状況も把握することができた。</b>

総合評価と今後の方向性	目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/>
	Q-Uの実施及び分析についての理解は進み、児童生徒や学級の状態を客観的な資料を踏まえて見取ることができるようになった。 しかし、具体的な活用が不十分であることが、実施後の調査票(教職員対象)の分析から明らかになった。  今後は、その見取った結果を日々の授業改善や人間関係づくり等、具体的な取組に活かしていく。また、研究協力校(3中学校を指定)に専門家を派遣するなどの支援を行い、その効果的な取組を県内に広めていく。

個別事業評価				
事業No.	24	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	不登校・いじめ等対策小中連携事業		担当課	人権教育課
			当初予算額(千円)	16,596
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	15,828

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ いじめや不登校等児童生徒の問題行動は依然として高い水準で発生しているが、特に中学1年生の段階で急増している。 ◆ 委託4市(高知市、香南市、土佐市、宿毛市)については、不登校の出現率が全国平均より高い状況である。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 委託4市の研究員とチーム支援会等を通じて情報を把握した。委託4市においては、毎月長期欠席者数を把握するなど、早期に対応するよう学校と連携をとって取組を進めた。
		<b>【要因】</b> ◆ 学級が子どもにとって安心できる場所になっていない。 ◆ 子どもにとって、小学校から中学校に進学したとき、学習内容や生活リズムなど環境の変化が大きいと感じている。 ◆ 少子化や地域のつながりの薄れなどから、集団性・社会性が十分に育っていない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 不登校の背景にはさまざまな要因があり、今後も要因分析や対応策を探っていかなければならない。
②	目標(Outcome)	◆ 平成21年度は、委託4市の不登校児童生徒数を平成20年度より減少させる。また、県全体では、不登校児童生徒数を100名減少させる。  ◇ (平成23年度末までに不登校、いじめなど生徒指導上の諸課題の発生率を全国水準まで改善する。)  ※ <想定される、取組の効果> ・「中1ガイダンス」や「人間関係づくり」→落ち着いた学習環境となり、中学1年生段階での諸課題発生率が改善される。 ・不登校等学習支援員による学習支援→担任だけでは対応しきれなかった生徒に対し、学習支援ができ、中学校での生活に適應できるようになる。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 設定できていた。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 平成21年度は、委託4市の不登校児童生徒数(※速報値)は、平成20年度より減少させることができたが目標は達成できなかった。 ◆ 委託4市の取組の成果には差があることから、今後も重点的な支援が必要である。  ※ 平成21年度不登校児童生徒数については、8月公表予定
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 不登校及び長期欠席者数調査 ◆ 各種会議での情報収集	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 広域支援会議の開催 ・委託4市(高知市、香南市、土佐市、宿毛市)において、課題解決のための小中学校間の連続性のある取組をし、市全体の取組として強化・拡大する。  ◆ 小中間の交換授業や交流会の実施  ◆ 小中連絡会議や市町村連絡会議の定期的な実施  ◆ 中1ガイダンスの充実  ◆ 小中連続した人間関係づくりや生徒指導のシステム化  ◆ 不登校等児童生徒への学習支援(香南市、土佐市、宿毛市に各2名、高知市に4名の不登校等学習支援員を配置する)	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 概ね計画通り実施ができたが、内容が十分でなかったものもある。  ◆ 広域支援会議を3回開催したが、参加者が固定されていなかったのため、協議内容やアドバイザーからの助言が、ステップアップしていくものになりにくかった。  ◆ 高知市の作成した人間関係づくりプログラム「高知あったかプログラム」を増刷した。県内全小中学校に4月に配布し、周知・活用を図っていく予定である。
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	<b>目標達成度 C</b> 「No」を選択した項目 <b>イ,エ,オ</b>  平成21年度は、中1ガイダンスの充実等により、委託4市の不登校児童生徒数を平成20年度より減少させることができたが、目標は達成できなかった。委託4市の取組の成果には差があることから、今後も重点的に支援が必要である。  平成22年度は、委託4市の取組を継続するとともに、取組を広げるため、新たに6市町村の10中学校を推進指定校とし、人間関係づくりや中1ガイダンスの充実を図る。広域支援会議では、参加者を固定化して、アドバイザーの助言を活かし、ステップアップする内容としていく。

個別事業評価				
事業No.	25	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	幼少期における感動体験モデル事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	4,680
			補正後予算額(千円)	3,943
			決算額(千円)	3,688

		当初	年度末
①	現状 (課題) とその要因	<b>【現状】</b> 子どもたちが日常生活の中で、山(森)・川・海などで遊び、体験を通して学ぶということが少なくなっている。特に、幼少期において、親子で継続的に参加して体験活動を行う場が少ない現状がある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成17年度「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」(独立行政法人国立青少年教育振興機構)における青少年の自然体験活動への取組状況調査をもとに現状分析しており、概ね把握している。
		<b>【要因】</b> 子どもの発達段階に応じた体験活動のできる場所や、地域において体験活動を指導できる人材が不足している。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成20年度、県内の有識者による感動体験モデル事業検討委員会において分析されたものであり、十分に特定できていたと考える。
②	目標 (Outcome)	◆ 公募により県内の4団体に体験活動事業費補助金を交付し、親子を対象とした自然・文化・社会体験に関する活動及び、体験活動指導者育成のための研修会等を実施することにより、体験活動の場を広げ、指導者の養成を行う。 ・ 体験活動参加者目標数 親子で延べ400人 ・ 指導者研修会参加者目標数 100人以上	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成20年度に作成した「幼少期感動体験プログラム作成ガイドライン」を基本とした事業の実施であり、具体的で、達成可能な目標を設定した。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 森・川・海の自然体験やそれに絵本を組み合わせた体験プログラムを実施することにより、徐々に体験活動の場が広がるとともに、指導者研修会終了後、体験活動の支援をするようになった参加者もおり、指導者養成も進んでいる。
		<b>【検証(比較)方法】</b> 「幼少期における感動体験モデル事業」中間報告会・報告会を開催し、事業の実施内容について検証を行う。	・ 体験活動参加者数 親子で延べ312人 ・ 指導者研修会参加者数 99人
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 体験活動事業費補助金 ・ 補助団体 4団体 ・ 体験活動実施回数 各団体3回(計12回) ・ プログラムの拡充 4プログラム ・ 指導者研修会等 各団体1回以上開催 ・ 「幼少期感動体験プログラム作成ガイドライン」(H20作成)に掲載しているプログラム事例を参考に、地域の資源を活用して補助団体が実施する事業を支援する。 ◆ 体験活動に関する「幼少期における感動体験モデル事業」中間報告会・報告会を開催する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 各実施団体の特色を活かした体験プログラムが実施できた。 ・ 補助団体(4団体) 高知県森と緑の会 四国自然史科学研究センター 四万十楽舎 しみず子ども読書活動応援隊 ・ 体験活動実施回数 4団体で17回実施 ・ プログラムの拡充 4プログラム →H20のガイドブックのサイドブックの作成 ・ 広報啓発活動 11回 ・ 指導者研修会 11回 ◆ 中間報告会(12/21開催) ◆ 報告会(2/25開催)
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/> 今後は、「森あそび」を中心とした体験活動のネットワークを整備して、1年を通じて森、川、海で体験できるフィールドづくりを推進していく必要がある。

個別事業評価			
事業No,	26	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革
事業名称	青少年センター主催事業	担当課	生涯学習課
		当初予算額(千円)	4,293
		補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	3,354

		当初	年度末
①	現状 (課題) と その要因	<b>【現状】</b> ◆ 中学校という新しい環境に馴染めないまま学力低下を起している実態(中1ギャップ)があるが、有効な対策がない。 ◆ 大人や友人、地域社会とうまく関わりが持てず不登校等になる実態があるが、これまで、不登校児童・生徒を対象とした事業は実施してこなかった。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> 学校への聞き取り調査によりニーズを把握していた。
		<b>【要因】</b> ◆ 生徒が中学校に馴染めないまま授業が進むため、授業が理解できず学力低下を引き起こす。 ◆ 不登校になる要因に、自分に自信が持てない、体験不足により生きる力が備わっていない実態がある。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> 不登校対策は心の教育センターや森田村塾と連携して、不登校の要因を特定できていた。
②	目標 (Outcome)	◆ 中1ギャップ解消のためのプログラムを作成し、当センターで集団宿泊訓練を行う中学校で実践し、検証を行う。 ◆ プログラム参加者の研修効果率を80%以上(本人アンケート)とする。 ◆ 不登校児童・生徒の意欲喚起のための自然ふれあい体験教室に、県内各地から20名以上を参加させる。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> 参加者数や満足度合など、数値で示せる具体的な目標を設定していた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 集団宿泊訓練を実施した2ヶ月後に、引率教員を対象としたアンケート調査を実施し、「学級経営に役立っているかどうか」を検証する。 ◆ 研修後、受講した生徒を対象にアンケートを実施し、「研修効果を実感したかどうか」を検証する。 ◆ 不登校児童・生徒の自然ふれあい体験教室への参加者数	<b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ◆ 引率教員30人全員から「学級経営に効果あり」と回答があった。 ◆ 生徒へのアンケートでは、「楽しかった94%、仲間ができた82%、マナーの大事さを理解した98%、家庭学習をする89%、目標を持つ94%」と回答があった。 ◆ 自然ふれあい体験教室に、不登校児童・生徒が28名参加した。
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 中1学級づくり集団宿泊訓練プログラムを策定する。 ◆ 中学校を訪問して、校長等に対して参加募集の働きかけを行う。 ◆ 不登校対策については、心の教育センターと協議しながら自然ふれあい体験教室を実施する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ◆ 2泊3日の集団宿泊訓練プログラムを策定した。 (「感動塾」「友情鍋」といった仲間づくりプログラムなど) ◆ 集団宿泊訓練プログラムへの参加実績: 中学校4校234名 ◆ 13中学校及び5市の校長会を訪問し、参加募集の働きかけを行った。 ◆ 10月に県内全域を対象とした1泊2日の自然ふれあい体験教室を実施した。
		<b>総合評価 と 今後の方向性</b>	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/> 中1ギャップ解消のための集団宿泊訓練は、教員・生徒から高い評価が得られた。また、施設側の活動内容の検証(効果的な宿泊日程やプログラム策定など)も行うことができた。 次年度は、今年度の結果をもとにして、学校・教育委員会・他青少年教育施設との連携を行いながら、2泊3日を基本とした宿泊体験訓練を11校で実施予定である。以降も実施校を順次増やし、中1ギャップの解消に努めたい。

**個別事業評価**

事業No.	27	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	幡多青少年の家主催事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	996
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	597

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 高知県下の不登校生は、小学校184名、中学校664名であり、幡多地域における適応教室に通っている不登校の児童生徒は30数名で、コミュニケーション能力が弱く、新しい環境に適應できない子どもが多い。 ◆ 中1ギャップ・中1プロブレムと言われる現象が小学校から中学校に入学して、9月までに急増。また中1から中2になる時も増加する傾向にあり、不登校へと発展している。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 適応指導教室及び市町村教育委員会事務局からの情報収集により適切な把握を行えた。
		<b>【要因】</b> ◆ 自然体験活動が十分でなく、自立心が育っていない。 ◆ テレビゲームやパソコンなどで遊ぶ子供が主流となり人間関係や仲間づくりができにくい。 ◆ 学校が統合されたことにより、環境についていけないといったことも考えられる。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 昨今の利用者の特長や各種文献等から、一定の特定はできていたと考えている。
②	目標(Outcome)	① 不登校児に対するサポートプログラムに3回以上参加した児童・生徒の割合を50%以上とする。 ・ 昨年度(4名)以上の学校復帰者を目指す。 ② 仲間づくりを重点にしたプログラムを実施することによって、子どもたちの心の変化を促す。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 昨年度実績を参考とした具体的な数値目標が設定できていたと考えている。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 全参加者30名のうち3回以上参加した者15名(50%) 学校復帰者は、普通校7名、定時制高校3名の計10名であり、当初の目標を達成できた。 ② 「協力、責任感が身につく日々の反省会に生きている。」 「その後の授業に落ち着きが見える。」 「活動時に協力、助け合いなど色々な面において、生徒のことがよく見えた。」など、研修後の事後調査を通じて、子どもたちの変化が報告されている。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ① 適応教室担当者から、プログラム参加後の不登校児童・生徒の状況についての確認調査を行う。 ② 実施校に対して、参加した児童・生徒の学校生活の状況についての事後聞き取り調査を行う。	
③	実施内容(Input・Output)	① 不登校児に対するプログラムを提供する。 ・ 連続した体験活動を年5回実施する。 ② 宿泊事業において、研修指定校を優先して受け入れる。 ・ 学校との事前打ち合わせの徹底 ・ 集団での規範意識や生活・学習習慣の定着 ・ 自主性の促進 ・ 事後の反省会の実施	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 年間8回の実施 ・ 当初計画を上回るとともに、各適応教室の相談員との反省会・情報交換会を行うなど、当初計画以上のことができた。 ・ <b>【プログラム提供の実績】</b> 適応教室7箇所、児童生徒延べ91人、指導相談員延べ56人、保護者延べ4人、職員延べ68人、育成会職員延べ7人、リース等の材料集め4人、実施要項の配布7回、その後の進路調査 他 ② 指定校3校(高知県教育委員会指定)の受入を実施、他校との重複時などは、優先的に日程調整を行った。
総合評価 と 今後の方向性			目標達成度 <b>A</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/>
			◆ 当分の間は、主催事業として対応していく必要があると認められるが、将来は、各市町村の適応教室が協議会等を作るなどして、目的やプログラムなどを計画し、当施設が場所の提供や活動の支援を行えるように推進していきたい。 ◆ 今後は、研修直後の利用校引率者のアンケート調査とその後の状況調査を行うなど効果の確認をしていく必要がある。

個別事業評価				
事業No.	28	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	若者の学びなおしと自立支援事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	13,280
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	11,590

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ ニートや引きこもりがちな若者の増加 ◆ 自分の将来に夢が描けない若者の増加 ◆ 無職の若者の増加による、将来の社会不安定要素の増加	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成17年度国勢調査や平成20年度「生徒指導上の諸問題に関する調査」結果のデータをもとに分析し、把握している。
		<b>【要因】</b> ◆ 不登校、中学校卒業時の進路未定者及び高校中途退学率が高いなど、学校教育でつまづく生徒が多い。 ◆ 雇用環境の悪化により、若年者の就労条件が厳しくなった。 ◆ ニートや引きこもりがちな若者たちの総合相談窓口が不足している。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 現状を踏まえた事業であり、要因を十分検討し、特定している。
②	目標(Outcome)	◆ 「若者はばたけネット」による新規登録者数は、年間50人を旨す。 ◆ こうち若者サポートステーションの新規登録者数は、月10人を旨す。 ◆ 高知黒潮若者サポートステーションの新規登録者数は、月8人を旨す。 ◆ 若者サポートステーションにおける進路決定率は、40%を旨す。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 目標は具体的なものである。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 中学校卒業生時及び高校中途退学時進路未定者を若者サポートステーションへ誘導する仕組みを構築し、市町村や高校への働きかけを行ってきたが、新規登録者は5人であった。また、進路決定率も目標を達成できなかった。  ・「若者はばたけネット」を利用した新規登録者数 5人 ※高校中途退学時進路未定者311人中、4人が登録 ※中学校卒業時進路未定者37人中、1人が登録 ・こうち若者サポートステーション新規登録者数 4.8人/月 ・高知黒潮若者サポートステーション新規登録者数 4.6人/月 ・若者サポートステーション進路決定率 32.6% ※うち、継続利用者の決定率 48.5%
		<b>【検証(比較)方法】</b> 若者サポートステーションの実績報告書により確認する。	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 若者サポートステーション事業を高知県社会福祉協議会とNPO法人青少年自立援助センターに委託する。 ◆ 支援プログラム作成等委員会による支援プログラムの作成、こうち若者サポートステーションで活用し実践・検証する。 ◆ 若者サポートステーションへの誘導の働きかけ ・中途退学の報告のあった高校を訪問し、中途退学者に対して、若者サポートステーションの紹介、登録を促す手紙の郵送を依頼する。 ◆ フォーラム(関係機関連絡会、実務者会議)を開催する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 中途退学者に対して、若者サポートステーションの紹介、登録を促す手紙を郵送する依頼のために高校を訪問した。(延べ33校) ◆ 延べ448人が支援プログラムの個別メニューに参加し、効果的かどうかについて検証することができた。 ◆ ブロック別協議会(3箇所:安芸市、須崎市、四万十市) ◆ フォーラム・相談会(4回:高知市、安芸市、須崎市、宿毛市)関係機関連絡会(1回:高知市)
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	<b>目標達成度</b> <b>C</b> 「No」を選択した項目 <b>E</b>  進路未定の中学校卒業生、高校中途退学者が社会的弱者に陥りやすいので、市町村や高校からの個人情報の提供を弾力的に取り扱うことができるよう、個人情報保護条例制度委員会で検討していく。

**個別事業評価**

事業No.	29	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	市町村支援事業費 ※(県立図書館による市町村図書館等の支援)		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	10,778
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	9,350

		当 初	年 度 末
①	現状 (課題) と その要因	<b>【現状】</b> ◆ 全県下的な読書環境改善のためには、市町村図書館の振興・協力が不可欠な状態である。 ◆ 市町村図書館は、設置率が61.8%と全国37位の低水準にあり、職員数・蔵書数・資料費ともに全国最低の水準となっている。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 毎年実施される公共図書館調査により、県内図書館の状況はほぼ把握できている。
		<b>【要因】</b> ◆ 読書活動の重要性に対する全般的な認識不足 ◆ 市町村の財政難	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 市町村図書館等を訪問した際の聞き取り調査により、特定ができていた。 ◆ 他県の同規模自治体との比較・分析により特定していた。
②	目標 (Outcome)	① 物流システム事業 ・物流体制を整備する(ニーズ調査をして拡大する)。 ・物流システムの利用を促進する(30%増)。 ② 移動図書館事業 ・移動図書館の利用を促進する(30%増)。 ③ 市町村支援事業 ・市町村支援事業の利用を促進する(30%増)。 ・市町村図書館への貸出数が増加する(30%増)。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 前年度比較で具体的な数字を挙げた目標を設定しているが、図書館業務の成果は数字では表せない面も大きいと考えている。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 物流システムの総貸出冊数 → 40,757冊(前年比 26%増) ② 移動図書館の貸出冊数 → 63,495冊(前年比 30%増) ③ 市町村支援回数が増加 14回 → 40回(前年比 185%増) ・市町村図書館への貸出冊数 8,857冊 → 13,775冊(前年比 56%増)
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 物流業務の記録 ◆ 移動図書館貸出記録 ◆ 日本図書館協会の公共図書館調査	
③	実施内容 (Input・Output)	① 物流システム事業 ・市町村図書館や学校図書館等県内58団体との物流体制を整備する(役務費 1,013千円)。 ② 移動図書館事業 ・市町村図書館や学校・公民館等県内131団体への巡回訪問活動の実施(バス運行委託5,166千円、図書購入等需用費4,368千円) ③ 市町村支援事業 ・県内全市町村に対して、図書サービスの充実や図書館の管理運営などのアドバイスを行う。(旅費 231千円)	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 物流システム事業 県内50団体との間で資料の貸出提供を行い、物流体制の整備につながった。 ② 移動図書館事業 県内126団体への巡回訪問活動を行い、資料の貸出提供等を行った。 ③ 市町村支援事業 従来から支援要望のあった図書館への対応を含めて、県内25団体に計40回、図書館運営のアドバイス等を行った。 ※ ただし、図書館の存しない13町村への支援を優先したため、全市町村までの支援には至らなかった。

総合評価 と 今後の方向性	目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <b>イ</b>
	県内市町村図書館の支援は県立図書館の重要な責務であるが、一方で各市町村が自らの力で一定水準の図書サービスを提供できるようになることが重要である。これまでの物的・人的支援に加えて、読書や活字文化の重要性を県内に広げる普及・啓発的な事業にも取り組んでいく必要があると考える。



個別事業評価				
事業No.	30	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	子どもの読書活動推進総合事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	6,683
			補正後予算額(千円)	9,976
			決算額(千円)	9,065

		当初	年度末
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> 県内の小中学校では、ほとんどの学校で一斉読書が行われ、全国学力・学習状況調査においても、全国と比較して読書好きな子どもが多いという調査結果が出ている。しかしながら、これらのことが読解力の向上につながっておらず、「読書の質」に課題がある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 学校読書調査や全国学力・学習状況調査のデータをもとに現状・課題を分析しており、正確に把握していたといえる。
		<b>【要因】</b> ◆ 子どもに本を手渡す「司書や読書ボランティア」など専門性を有する人が少ない。 ◆ 子どもの読書環境の地域間格差が大きく、中山間地域には公立図書館・書店のない町村も多い。 ◆ 平成20年度全国学力・学習状況調査結果の概要によると、国語においては文章を読む力、数学においては文章問題を読み取る力が身につけていない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 高知県子ども読書活動推進計画の策定過程で、要因を十分分析したものであり、特定できている。
②	目標(Outcome)	① 公立図書館のない13町村において、県立図書館の図書利用冊数を増加させる。 ② 市町村の読書応援隊組織化率は50%以上を目指す。 ③ 市町村の「子ども読書活動推進計画」策定率は50%を目指す。 ④ 読書楽力検定の受検者数は前年度比50%増の2,000人を目指す。(平成20年度は1,341人) ⑤ 全国読書フェスティバルへの参加者数は2,000人以上を目指す。(平成20年度は1,500人)	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 継続して取り組んでいる事業もあり、達成可能な具体的な数値目標を決定している。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 公立図書館のない13町村に、子どもの読書活動支援員を配置することにより、公民館図書室の機能が向上するとともに、読書環境の整備が進んだ。また、「読書の質」の向上を目指した各種事業に目標を上回る参加があり、中学生を対象とするブックレビューは、マスコミヤ書店と連携した取組に発展した。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ① 県立図書館のデータ ② ③市町村への調査 ④ ⑤参加者(受検者)数	① 公立図書館の無い13町村の県立図書館の図書利用冊数5,850冊で、前年度比686%増 ② 市町村の読書応援隊組織化率70% ③ 市町村の「子ども読書活動推進計画」策定率21% ④ 読書楽力検定受検者数は2,520人(うち中学生61%)で、前年度比88%増 ⑤ 全国読書フェスティバル参加者数は2,500人(27都府県から参加)
③	実施内容(Input・Output)	① 公立図書館のない13町村及び読書環境の厳しい地域のある4市町、計17市町村に子どもの読書活動支援員を配置する。 ② 「子ども読書活動推進計画」未策定市町村を対象とした策定研修会を実施する。 ③ 県内3箇所計9回の読書ボランティア養成講座を実施する。 ④ 主に中学生を対象に自発的な読書と質の向上のための「読書楽力検定」を実施する。 ⑤ 子ども司書養成講座(22単位34時間)を実施し、子ども司書を40人養成する。 ⑥ 中学生を対象とした読書啓発のためのブックレビューを作成し、県内すべての中学生に配布する。 ⑦ 県東部において全国読書フェスティバルを実施する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ① 子どもの読書活動支援員を17市町村に配置した。 ② 県内3箇所、「子ども読書活動推進計画策定」研修会を開催した。 ③ 読書ボランティア養成講座を開催(県内3箇所各3回開催)し、51人が参加した。また、県内の70%の市町村(24市町村)でボランティアが活用された。 ④ 読書楽力検定を25,000部作成し、県内全中学生、全小・高校・図書館に配布した。 ⑤ 子ども司書を39人(うち中学生28人)養成した。(34時間22単位の講座を県内3箇所で開催) ⑥ ブックレビュー「高知県の中学生が贈る133冊」を25,000部作成し、県内全中学生、全小・高校・図書館に配布した。 ⑦ 1月24日に全国読書フェスティバルin香南を開催した。
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	<b>目標達成度 B</b> 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/> 平成22年度は国民読書年であり、官民協働で子どもの読書を推進していきたい。また、市町村子ども読書活動推進計画の未策定市町村に対しては、きめ細やかな働きかけを行っていく。こうした取組を通じて、子どもの自発的な読書の推進と質の向上を図る。

個別事業評価				
事業No,	31	施策の柱への位置づけ	柱④ 心の教育改革	
事業名称	学校図書館支援員配置事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	38,319
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	36,775

		当初	年度末
①	現状 (課題) と その要因	<b>【現状】</b> 学校図書館を活用し、子どもの読書活動を進めるためには、学校図書館に貸出業務等にあたる職員が学校図書館に常駐し、図書館活動の活性化に向け支援を行う必要がある。しかし、多くの小中学校においては、この業務を行う担当教員を決めているが、受け持ちの授業との関係で、担当教員が学校図書館に常駐することができていない。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成21年度の学校図書館の現状に関する調査(文部科学省)結果から学校図書館担当職員の配置状況を把握した。
		<b>【要因】</b> 学校図書館担当職員を配置するための予算措置がされていない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 学校図書館の現状に関する調査結果では、学校図書館担当職員を配置していると答えた学校は、小学校で1校、中学校1校のみであった。
②	目標 (Outcome)	◆ 図書館業務の活性化を図り、児童生徒の図書貸し出し冊数を増加させるとともに、児童生徒への読み聞かせ等の読書活動を充実させる。 ◆ 図書館の環境整備を進めるとともに、学校図書館の開放時間を拡大する。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 児童生徒数や蔵書の冊数など、各学校により実情が違う。そのため、各校の実情に応じ、児童生徒の図書貸し出し冊数の増加や学校図書館の開放時間の拡大等、学校図書館を活用した教育の活性化を図ることを目標とした。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 配置校では、図書貸し出し冊数の大幅な増加や学校図書館の開放時間の拡大、あるいは児童生徒への読み聞かせやブックトークの活動などが展開され、図書館を活用した教育の活性化が図られた。また、蔵書の整備や掲示物の工夫など図書館の環境も整備された。  ※【参考】 A校:1日当たりの平均貸出冊数が1学期88.8冊だったものが、3学期には123.7冊まで増加した。  B校:本の受け入れ、修復、廃棄等が図書館支援員の配置によって、より早く充実した形で行えた。  C校:すべての休み時間、支援員が図書室に在室して児童に対応することができたため、落ち着いて読書する習慣が定着するとともに、図書室への来室児童が昨年度に比べ、1.4倍ほどに増加した。また、長期休業中も図書室利用が可能となり、利用者が大幅に増えた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> 配置校での実績を下記の項目等で検証する。 ◆ 学校図書館の利用状況 ◆ 貸出冊数 ◆ 図書の整備状況	
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 12学級以上の学級数を有する公立小中学校21校(小18校、中3校)に、学校図書館の貸し出し業務や児童生徒への読み聞かせを行うなど、図書館業務の活性化を図るため、多様な経歴を有する社会人21名を配置する。	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 平成21年10月1日から、計画どおり県内の13市町村(高知市、香南市、南国市、土佐市、須崎市、四万十市、土佐清水市、いの町、中土佐町、佐川町、越知町、四万十町、大月町)、21校(小18校、中3校)に21名を配置した。
		目標達成度 <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/>	総合評価 と 今後の方向性
		配置校では、学校図書館の開設時間の拡大や蔵書の整理等の環境整備が進められた。このことにより、配置校の児童生徒は、学校図書館を意欲的に活用しはじめ、図書の貸し出し冊数も大幅に増加している。ただ、今回の支援員の配置は、国による緊急雇用創設事業を活用し配置したものであり、現状では、平成23年度までで打ち切られる予定となっている。 学校における学校図書館を活用した教育をさらに充実させるためには、この事業を継続するとともに、配置校の拡大を図ることが必要である(なお、平成22年度は、この事業を市町村に移管継続する予定である。)。	